

妊婦健康診査で把握した B型肝炎ウイルスキャリアの支援始まる

鳥取県健康対策協議会肝臓がん対策専門委員会

- 日時 平成30年3月3日（土） 午後2時30分～午後3時50分
- 場所 鳥取県保健事業団中部健康管理センター 倉吉市米田町
- 出席者 24人
魚谷会長、岸本対策委員長
芦田・植木・大城・岡田・岡野・孝田・陶山・永原・藤井・前田・
松木・松田・的野・満田・村脇・山田各委員
県健康政策課がん・生活習慣病対策室：高橋室長、米田課長補佐
山本課長補佐
健対協事務局：谷口事務局長、岩垣係長、神戸主任

【概要】

・平成28年度肝炎ウイルス検査受診者数は6,292人で、受診率は2.8%で、前年度に引き続き減少傾向である。検査の結果、HBs抗原のみ陽性者は90人（陽性率1.4%）、HCV抗体のみ陽性者は20人（陽性率0.3%）である。

また、平成7～9年度の検診時において、市町村から報告のあった対象者数

192,315人に対し、平成7～28年度の21年間の受診者は受診者数154,738人、推計受診率80.5%である。そのうちHBs抗原陽性者は3,459人（陽性率2.24%）、HCV抗体陽性者は3,706人（陽性率2.49%）であった。

・県が平成30年度に実施する肝炎関連事業として、新たに肝炎医療コーディネーターを養成する研修会を実施する等について報告された。

- ・市町村の妊婦健康診査で把握したB型肝炎キャリア妊婦に対する支援の状況を把握するため、アンケート調査結果から、県としては、市町村に対してフォローアップの取り組みを要請していきたい旨報告された。
- ・現在の「鳥取県肝炎対策推進計画」は、平成29年度で計画期間が終了することにより、第2次鳥取県肝炎対策推進計画案についてパブリックコメントを実施し、これまでの検討状況、パブリックコメントを踏まえ、平成30年度からの計画を策定することが報告された。

挨拶（要旨）

〈魚谷会長〉

皆様には、日頃から健対協事業にご尽力頂き、深謝申しあげる。

健対協の冬部会は、1月18日から始まり、本日をもって専門員会開催は終了し、あと残すところ、3月8日の総合部会のみとなっている。

肝炎対策については、近年、すばらしい治療薬が出てきている。肝臓がん対策は、イコール、肝炎対策ではないかと思っている。本日は、いくつかの報告事項と懸案事項が議題に挙がっているので、本県の肝がん対策がより充実していくように皆様方の活発なご討議をよろしく願います。

〈岸本対策専門委員長〉

本日は、多くの議題が準備されているが、ご議論の程、よろしく願います

当委員会の最終目的は、本県の肝臓がんによる死亡率を低下させることである。平成7年度から肝がん対策専門委員会は設置されているが、今ま

で肝がんの死亡率を下げる成果をあまりあげてきていなかったと思われるが、平成28年度の鳥取県肝がん75歳未満年齢調整死亡率は、やっと、全国で10位以下となった。本日の議題の議論を通して、更に鳥取県の肝がんの死亡率が少なるよう祈念している。

報告事項

1. 平成28年度肝炎ウイルス検査実績報告並びに平成29年度事業実績見込み及び平成30年度実施計画について：

山本県健康政策課がん・生活習慣病対策室課長補佐

(1) 平成28年度肝炎ウイルス検査

平成28年度は19市町村で実施し、対象者数221,491人（27年度196,150人）のうち、受診者数は6,292人で、受診率は2.8%で、平成27年度に比べ、受診者数が887人、受診率が0.9ポイント減少した。前年度に引き続き減少傾向である。

検査の結果、HBs抗原のみ陽性者は90人、HCV抗体のみ陽性者は16人で、HBs抗原陽性率1.4%で、平成27年度に比べ0.2ポイント減であった。また、HCV抗体陽性率0.3%で平成27年度と同率であった。

要精検者105人のうち精検受診者は62人であり、精検受診率は59.0%で、平成27年度に比べ3.1ポイント減であった。精検の結果、がんは発見されなかった。75.8%は無症候性キャリアであった。

(2) 肝臓がん検診により発見されたウイルス陽性者に対するの定期検査の状況について（県事業の肝臓がん対策事業）

平成10年度から実施している、検診で発見された肝炎ウイルス陽性者に対する定期検査は17市町村で実施された。結果は以下のとおりである。

区 分	健康指導対象者 (人)	定期検査受診者数 (人)	定期検査結果 (人・%)			
			慢性肝炎	肝硬変	肝臓がん	がん疑い
B型肝炎ウイルス陽性者	1,859	907	143 (15.8)	8 (0.9)	2 (0.2)	1 (0.1)
C型肝炎ウイルス陽性者	758	373	118 (31.6)	15 (4.0)	8 (2.1)	2 (0.5)

肝臓がんと報告された中には、過去の定期検査で「がん」と報告されたものも含まれている。

(3) 平成7～28年度の21年間を集計すると、平成7～9年度の検診時において、市町村から報告のあった対象者数192,315人に対し、受診者数154,738人、推計受診率80.5%である。そのうちHBs抗原陽性者は3,459人(陽性率2.24%)、HCV抗体陽性者は3,706人(陽性率2.49%)であった。

年代別でみると、平成7～28年度平均HCV抗体陽性率は60歳以上が高く、HBs抗原陽性率は45歳～55歳代が高い傾向である。

平成7年度からの28年度までの年代別の累計を報告しているが、5年ごとの累計で報告するなどしないと、陽性率が下がってきているかどうかの状況が見えないとの意見があり、次回からの報告方法を検討することとなった。

(4) 平成29年度実施見込み及び平成30年度実施計画について

平成29年度の受診予定数は国庫事業の肝炎ウイルス検査は18市町村実施で6,826人、市町村単独事業は6町実施し877人の見込みである。

平成30年度実施計画は国庫事業の肝炎ウイルス検査は18市町村実施で6,871人、市町村単独事業は6町実施で940人を計画している。

2. 平成28年度肝臓がん検診発見がん患者確定調査結果について：孝田委員

(1) 平成28年度肝炎ウイルス検査からは肝がん疑いと診断されたが、調査の結果、CTにて腫瘍なしと診断されている。肝臓がん検診により

発見されたウイルス陽性者に対しての定期検査の結果、C型肝炎ウイルス陽性者から肝臓癌が5名であった。

(2) 平成7～28年度肝臓がん検診発見がん患者のうち、30例が確定癌であり、そのうち26例は死亡、生存中の4例のうち、2例は再発、2例は再発されていない。また、平成10～28年度定期検査確定がんが157例で、そのうち119例(他病死を含む)が死亡である。

死因が記載されていないので、調査個人票の死因項目に肝臓がん、肝臓関連死、その他疾病()を入れることとなった。

3. 「鳥取県肝炎治療特別促進事業実施要綱」の一部改正について：

山本県健康政策課がん・生活習慣病対策室課長補佐

新たにC型慢性肝炎患者等に対する新薬・マヴイレット配合錠が保険適用となり医療費助成対象に追加されたことに伴い、「鳥取県肝炎治療特別促進事業実施要綱」の一部が改正されたことについて報告された。平成29年11月22日より適応される。

4. 平成29年度肝炎ウイルス検査の結果について(平成29年12月末現在)：

山本県健康政策課がん・生活習慣病対策室課長補佐

保健所においては、平成29年度実績は、平成29年12月末現在でB型肝炎検査100件、C型肝炎検査103件で、そのうちB型陽性者が3人で、陽性率

は3.0%、C型陽性者は0人であった。

医療機関においては、平成29年度実績は、平成29年12月末現在でB型肝炎検査255件、C型肝炎検査259件で、そのうちB型陽性者が4人で、陽性率は1.5%、C型陽性者が1人で、陽性率は0.4%であった。

県・市町村が実施する肝炎検査で陽性と判定された方を対象に、医療機関で初回の精密検査の費用の助成を受けた方は、平成29年度は平成29年12月末現在で17人であった。

平成27年度より開始した肝炎定期検査費用（年2回を限度）助成を受けた方は、平成29年度は平成29年12月末現在で20人であった。

5. 肝炎治療特別促進事業の認定状況について：

山本県健康政策課がん・生活習慣病対策室課長補佐

平成20年4月から平成30年2月現在での新規受給者は、B型肝炎は1,317件、C型肝炎は2,015件であった。年次推移から、B型・C型肝炎ともに新規認定者は減少傾向にある。委員から、認定審査会の開催方法等について県に対し検討するよう要請があった。

6. 平成30年度肝炎関連事業の概要について：

山本県健康政策課がん・生活習慣病対策室課長補佐

県が平成30年度に実施する肝炎関連事業として、新たに肝炎医療コーディネーターを養成する研修会を実施する等について報告された。

7. 妊婦健康診査で把握したB型キャリア妊婦の支援について：植木県健康政策課長

鳥取県は、B型肝炎患者が多く、B型肝炎に起因する肝がんの患者数（人口10万対）が全国一高いとのデータもあり、重大な健康課題となっている。

この度、市町村の妊婦健康診査で把握したB型肝炎キャリア妊婦に対する支援の状況を把握する

ため、アンケート調査を実施した。

アンケート結果は、以下のとおりである。

・妊婦健康診査におけるB型肝炎キャリアの方を把握している：19市町村

・B型肝炎キャリア妊婦の把握方法（複数回答）
妊婦健康診査の結果：18市町村

新生児訪問：3市町村

・フォローアップの状況

あり：4市町村

（フォローアップの内容）

家庭訪問、電話による精密検査や定期検査の受診勧奨。母子健康手帳での児へのワクチン接種の確認等。

なし：15市町村

（フォローアップしていない又はできていない理由）

B型肝炎キャリアフォロー体制ができていないため。定期検査を受診されているため。医療機関で適切にフォローアップされていると考えているため等。

以上の調査結果から、県としては、市町村に対してフォローアップの取り組みを要請していきたい旨報告された。

8. 第2次鳥取県肝炎対策推進計画について：

山本県健康政策課がん・生活習慣病対策室課長補佐

現在の「鳥取県肝炎対策推進計画」は、平成29年度で計画期間が終了することにより、平成28年6月30日付で国の肝炎対策基本指針の改正も踏まえ、平成29年度中に新たな計画を改定する。

第2次鳥取県肝炎対策推進計画案についてパブリックコメントを実施し、これまでの検討状況、パブリックコメントを踏まえ、平成30年度からの計画を策定することが報告された。

9. 新年度の県のがん対策新規事業について：

高橋県健康政策課がん・生活習慣病対策室長

「脱！がん死亡率ワースト3事業」として、①鳥取のがん医療“見える化”事業、②がん薬物療法専門医、放射線治療専門医の育成支援、③働きざかり世代への胃がん対策が行われる予定である。

協議事項

1. 「鳥取県肝臓がん検診精密検査機関登録実施要綱」の取り扱いについて

鳥取県肝臓がん検診精密検査医療機関登録基準における、「腹部超音波検査の臨床例が年間200例以上あること」についての取り扱いが協議され、来年度の夏部会において検討することとなった。

肝臓がん検診従事者講習会及び症例研究会

日時 平成30年3月3日（土）
午後4時～午後5時45分
場所 鳥取県保健事業団中部健康管理センター
倉吉市米田町
出席者 76名
(医師：74名、看護師・保健師：2名)

岡田克夫先生の司会により進行。

講演

鳥取県健康対策協議会肝臓がん対策専門委員会
委員長 岸本幸廣先生の座長により、鳥取県立厚

生病院消化器内科医長 永原天和先生による「鳥取県中部地区のC型肝炎治療の現状について～IFNフリー時代の肝がん診療を含めて～」の講演があった。

症例検討

前田和範先生の進行により、2地区より症例等を報告して頂き、検討を行った。

1) 東部症例（1例）：鳥取赤十字病院

満田朱理先生

2) 西部症例（1例）：山陰労災病院

西向荣治先生